

留学先からの報告

2019/12/07 Scripps Research

荻田譲

生活にも研究にも特にこれといった変化のない毎日を過ごしています。前回の報告書と同じ書き出しです。

プロジェクトもうすぐ終わる終わる詐欺をして2,3年経ちましたがようやく本当に終わりそうです。現在、最後のスケールアップと論文用の図とスキーム作りをしています。自分が研究室を去った後にこのプロジェクトの面倒を見る人はいないので手づから全てを終わらせるつもりです。論文がオンラインになるのを **Scripps** で見届けることはできなさそうですが、春前にアクセプトまで辿り着く予定です。

並行して **Original Research Proposal** の締め切りにも追われています。その名の通り現在の研究とは異なった独自のアイデアを考えて提案します。**NIH** スタイルプロポーザルを書き、**committee** の前で発表するというもので、卒業要件の一つです。大学によっては中間審査と同時期にやったり、そもそも要件としてない場所もあるそうです。**Scripps** は卒業間近の4,5年生にやるのが一般的です。最もその方が本来の研究にそこまで追われていない場合が多く、ポスドクに進む学生はポスドク先研究室の研究内容に近いテーマを勉強する良い機会になるからです。人によってはポスドク先のポストと協力してプロポーザルを書き、そのまま奨学金やグラントの応募に使うこともあるそうです。

自分の周りの同級生は少しずつ **Scripps** を去り始めました。同期のうち2/3程度はもう会社やポスドク先の研究室を決め終わっています。**Scripps** では就活の季節になると様々な会社が数人で **Scripps** にやってきて説明会と一次面接を行います。**Scripps** の化学科は有機合成一本なのでポスドクをせずに卒業後即大手製薬企業に就職する人がほとんどです。たまにスタートアップもリクルートしにやってきますがあまり人気がないようです。**Scripps** ではケムバイオ系の研究も盛んなせいか、プロセスケミストリーよりはメディシナルケミストリーに興味を持つ人が多い印象です。

自分も **Ph.D** 後のポスドクポストが決まりました。公式の書類などももらっていないのでここに詳しく書くのはまだやめておきますが、順当に行けば2020年の夏から新しい研究室に入れそうです。受け入れ先研究室も例に漏れずお金がないので奨学金をとってきて欲しいと言われましたが、海外で学位を取得して海外でポスドクをする日本人が応募できる奨学金が少なく驚きました。多くの財団がXヶ月以下の留学経験を応募資格として掲げており、これは非常にばかげたことだと思います。海外で博士課程に進む日本人が少数派であることは事実ですが、多くの財団がこういった学生を積極的に振るい落としていることは非常に残念です。また **JSPS** を除き、アメリカのポスドク最低賃金全額を負担できる奨学金は一つもありませんでした。ポスドクの受け入れ先が差額を負担してくれない場合は奨学金への応募すらできなくなります。一人当たりの支給額を少なくしより多くの人にチャンスを与えることは合理的に見えますが、ポスドクの奨学金に

限って言えば現状に即したものとは言えません。

ついこの間まで一年生だったのにもうすぐ卒業です。この5年間もあっという間でした。サンディエゴにそこまで愛着はないつもりですが、いざ去ると懐かしくなるのかもしれない。ひとまずはプロジェクトを終わらせてビザの申請が間に合うかどうかを心配しようと思います。